横浜市立相武山小学校

学校だより

１月号

令和６年１月９日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～

「 背 中 で 」

学校長　後藤　直樹

令和６年は衝撃的なスタートとなりました。被災地の一刻も早い復旧を願うばかりです。例年通りの年末年始が戻るとばかり思っていましたが、真冬とは思えない暖かさを含め、今年も「心してかかるべし」と諭されているような気持ちになりました。

さて、年末に放送されていた、１年を振り返る特集番組では、戦争や災害の悲惨な光景が続く中で、輝きを放っていたのは大谷翔平選手の話題でした。近年、野球に限らず様々なスポーツや芸術の分野でも世界で活躍する日本人が多いのに驚かされます。

私が幼い頃（昭和の時代）の日本人のイメージはそうではありませんでした。「根性」は備わっているものの大舞台や本番には弱く、一流とされていた選手も緊張から本来の実力さえ出せずに終わるという場面が多かったです。それは島国育ちなので仕方ないとされていました。また、体格にも恵まれているわけではないので、世界のレベルで勝負することは難しいという、理由（言い訳）を聞かされ続けたものです。その後、少しずつ日本人の体格は大きくなり、いつしか当たり前のように世界を目指すようになりました。しかし、近年の活躍の理由はそれだけではないように思います。日本人の気質と聞かれたとき、まず頭に浮かぶのは、「真面目さや勤勉さ」、そしてさらに物事を極めようとする良い意味での「こだわりや執着心」などが挙げられるでしょう。背景にはそれらを美徳と考え、大切にしていこうとする国民性や風土があるように思います。目の前の子どもたちを見ていても、よく頑張るな！と感心させられる場面に度々出会います。これは、決して学校教育のカリキュラムが優れているとか、教職員の指導法が優れているという理由ではないと思います。子どもは大人の背中を見て育つといいます。いちばん近い大人はもちろんご家族ですが、多くの時間を過ごす学校での出会い、先生や上級生、足しげく学校に来てくださるボランティアの皆さま、これらすべての人との出会いが子どもたちの生き方に影響しているものと考えています。私は若い先生方にこんな話をしています。「子どもは先生の言う通りには育たない。」「子どもは先生のように育つ。」元々は【先生】のところは【親】という文字でしたが、教師にもそのまま当てはまると思います。大谷翔平選手は、もちろん生まれながらの秀でた才能のもち主ですが、きっと子どもの頃に素晴らしい大人、そして先生に出会っているに違いありません。

４年生の習字（ボランティアのご指導）